

環境に関する福岡県民意識調査結果

令和2年度調査

福岡県環境部環境政策課

I 調査概要

1. 調査目的

県民の環境に関する意識や県が進める施策に対する県民ニーズを把握し、今後の環境施策へ反映させることを目的とする。

2. 調査方法

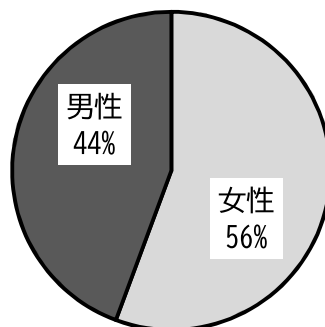
- (1) 調査地域
- (2) 調査対象者 県内に居住する18歳以上の方 400名
- (3) 回答者数 379名(回収率 94.75%)
- (4) 調査方法 インターネットによる回答
- (5) 調査期間 令和2年7月21日から8月4日まで
- (6) 居住地域 居住地域は、下記のとおり4地域に区分

地域	市町村
北九州地域	北九州市、行橋市、豊前市、中間市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町、 苅田町、みやこ町、吉富町、上毛町、築上町
福岡地域	福岡市、筑紫野市、春日市、大野城市、宗像市、太宰府市、古賀市、福 津市、朝倉市、糸島市、那珂川市、宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、 新宮町、久山町、粕屋町、筑前町、東峰村
筑後地域	大牟田市、久留米市、柳川市、八女市、筑後市、大川市、小郡市、うき は市、みやま市、大刀洗町、大木町、広川町
筑豊地域	直方市、飯塚市、田川市、宮若市、嘉麻市、小竹町、鞍手町、桂川町、 香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町

Ⅱ 回答者属性

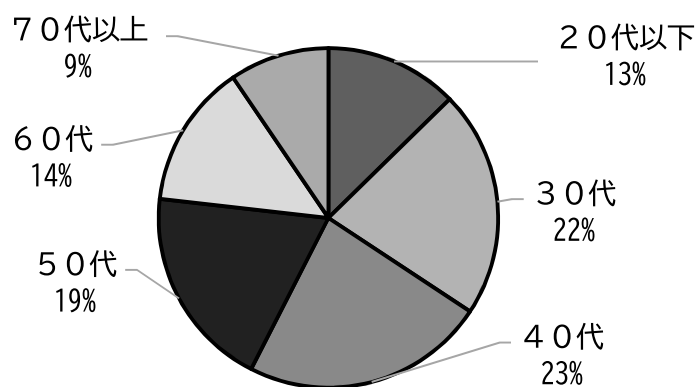
1. 性別

性別グラフ



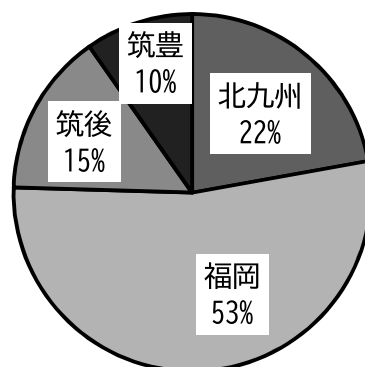
2. 年齢層

年代別グラフ



3. 居住地

地域別グラフ



Ⅲ 調査結果

1 環境月間の認知度

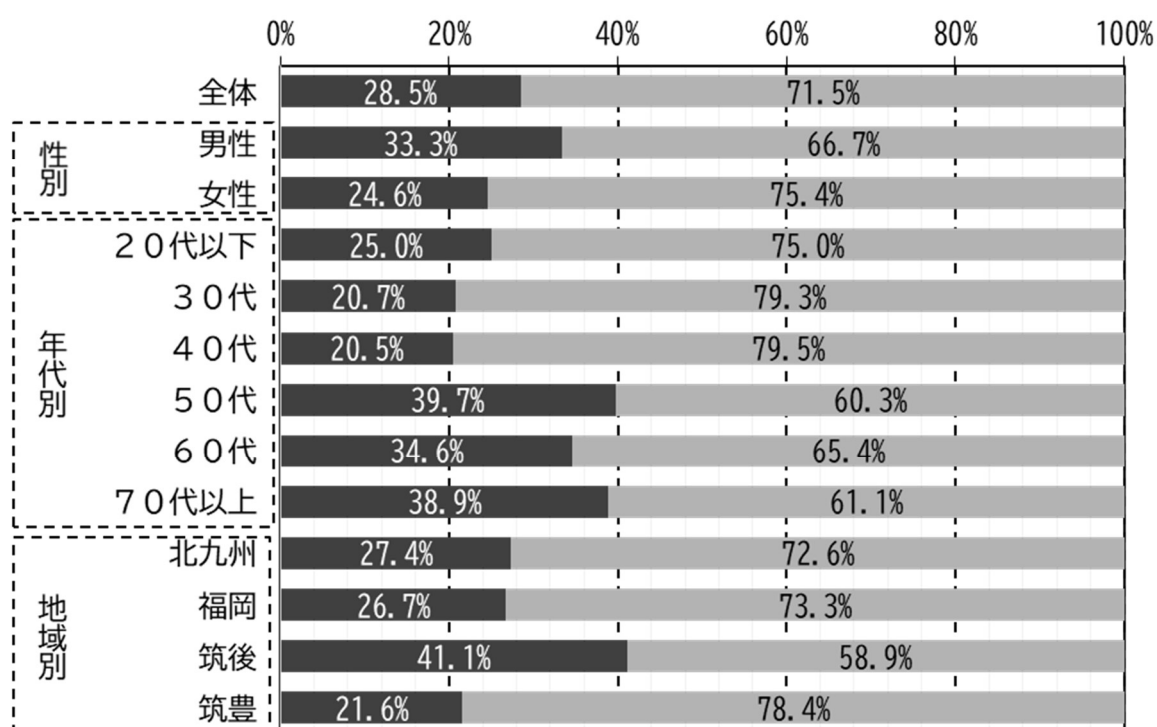
<問1> 毎年6月は環境について考える環境月間であり、県でも街頭キャンペーンなどを行っていますが、6月が環境月間であることを知っていますか。

(n=379 選択は1つのみ)

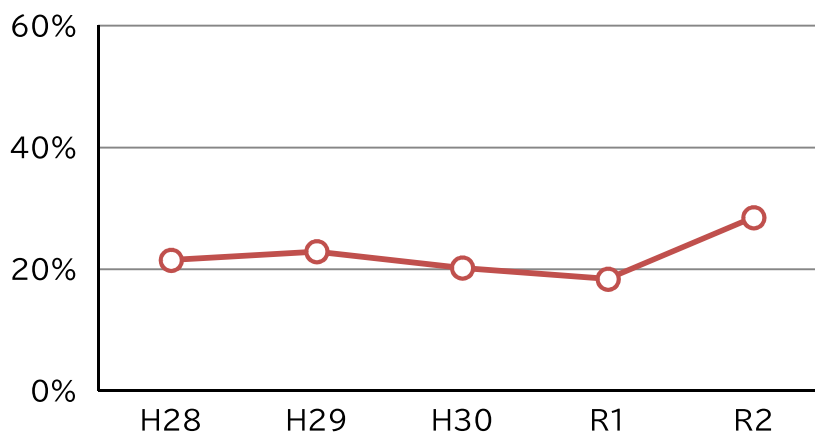
知らない	71.5%	(271名)
知っている	28.5%	(108名)
無回答	0.0%	(0名)

環境月間の認知度（全体、性別、年代別、地域別）

■ 1 知っている ■ 2 知らない



環境月間の認知度の経年変化



環境月間の認知度についてみると、全体では、「知っている」と答えた人の割合は28.5%で、「知らない」(71.5%)の方が上回っています。

過去5年間の推移をみると、例年20%前後でしたが、令和2年度は上昇していました。

環境月間の認知度についての回答を性別にみると、男性では「知っている」と答えた人の割合は33.3%で、女性で「知っている」と答えた人の割合24.6%を上回っていました。

年代別にみると、「知っている」と答えた人の割合が最も高いのは、50代(39.7%)で、次いで70代以上(38.9%)、60代(34.6%)となっています。

地域別にみると、筑後地域では「知っている」人の割合が41.1%と高く、他の3地域の21.6~27.4%を上回っていました。

(2) 身の回りの環境について満足していること

<問2> あなたが普段生活している身の回りの環境について、現在、満足しているのはどのようなところですか。

(n=379 複数回答可 回答件数=1,641)

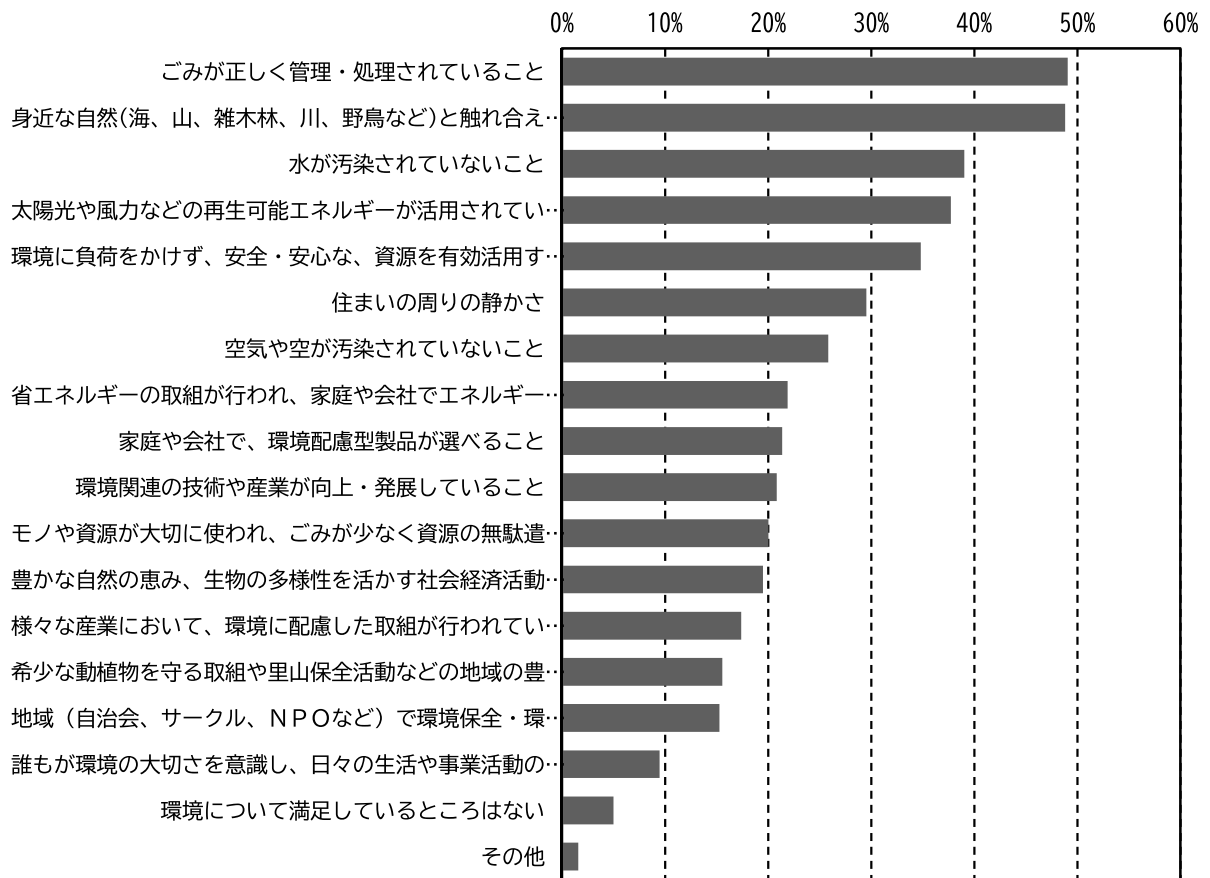
ごみが正しく管理・処理されていること	49.1%	186名
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えること	48.8%	185名
水が汚染されていないこと	39.1%	148名
太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること	37.7%	143名
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること	34.8%	132名
住まいの周りの静かさ	29.6%	112名
空気や空が汚染されていないこと	25.9%	98名
省エネルギーの取組が行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること	21.9%	83名
家庭や会社で、環境配慮型製品が選べること	21.4%	81名
モノや資源が大切に使われ、ごみが少なく資源の無駄遣いがないこと	20.1%	76名
環境関連の技術や産業が向上・発展していること	20.8%	79名
豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること	19.5%	74名
様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていること	17.4%	66名
希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること	15.6%	59名
地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていること	15.3%	58名
誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること	9.5%	36名
環境について満足しているところはない	5.0%	19名
その他	1.6%	6名

無回答 0.0% (0名)

〔その他(抜粋)〕

- ・ 夜に可燃ごみを収集してくださるところ。
- ・ ビニール袋削減のために、レジ袋が有料になったこと

身のまわりの環境について満足していること



普段生活している身の回りの環境について、現在、満足していることについて尋ねたところ、全体では、「ごみが正しく管理・処理されていること」(49.1%)及び「身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えること」(48.8%)の割合が高く、約半数の人が選択していました。

続いて、「水が汚染されていないこと」(39.1%)、「太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること」(37.7%)、「環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること」(34.8%)の割合が高く、いずれも3割以上の人が選択していました。

表 身の回りの環境について満足していること（全体、性別、年代別、地域別）

	回答人数合計（名）	環境に関する満足していること	省エネルギーの取組が家庭や会社でよく使われていること	太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること	モノや資源が無駄に使用されていないこと、ごみが少なくて済むこと	資源を有効活用するリサイクルが行われていること	環境に負荷をかけることなく、安全・安心な環境が保たれていること	ごみが正しく管理・処理されていること	身近な自然（海、山、雑木林、川、野鳥など）と触れ合えること	豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること	豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること	希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域での取組が自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること	空気や空気が汚染されていないこと	水が汚染されていないこと	住まいの周りの静かさ	様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていること	環境関連の技術や産業が向上・発展していること	家庭や会社で、環境配慮型製品が選ばれること	地域（自治会、サークル、NPOなど）で環境保全・環境教育を通じて活動が行われていること	誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること	環境について満足しているところは少ない	その他
全体	379	21.9%	37.7%	20.1%	34.8%	49.1%	48.8%	19.5%	15.6%	25.9%	39.1%	29.6%	17.4%	20.8%	21.4%	15.3%	9.5%	5.0%	1.6%			
性別	男性	168	26.8%	39.3%	20.2%	35.1%	53.0%	48.8%	23.2%	19.0%	38.1%	50.6%	32.7%	22.6%	29.2%	22.0%	14.9%	10.7%	6.5%	1.2%		
	女性	211	18.0%	36.5%	19.9%	34.6%	46.0%	48.8%	16.6%	12.8%	16.1%	29.9%	27.0%	13.3%	14.2%	20.9%	15.6%	8.5%	3.8%	1.9%		
年代別	20代以下	48	12.5%	20.8%	25.0%	31.3%	47.9%	35.4%	16.7%	10.4%	14.6%	37.5%	20.8%	8.3%	8.3%	22.9%	8.3%	8.3%	6.3%	0.0%		
	30代	82	24.4%	35.4%	22.0%	35.4%	42.7%	57.3%	19.5%	19.5%	18.3%	30.5%	29.3%	19.5%	23.2%	19.5%	14.6%	7.3%	7.3%	1.2%		
	40代	88	15.9%	40.9%	11.4%	28.4%	51.1%	48.9%	19.3%	12.5%	21.6%	34.1%	31.8%	14.8%	13.6%	18.2%	10.2%	8.0%	2.3%	1.1%		
	50代	73	30.1%	37.0%	15.1%	30.1%	38.4%	54.8%	24.7%	17.8%	30.1%	43.8%	31.5%	21.9%	26.0%	24.7%	15.1%	11.0%	1.4%	2.7%		
	60代	52	26.9%	44.2%	28.8%	38.5%	63.5%	40.4%	11.5%	13.5%	38.5%	42.3%	26.9%	17.3%	23.1%	19.2%	13.5%	13.5%	7.7%	3.8%		
	70代以上	36	19.4%	50.0%	27.8%	58.3%	61.1%	47.2%	25.0%	19.4%	41.7%	58.3%	36.1%	22.2%	36.1%	27.8%	41.7%	11.1%	8.3%	0.0%		
地域別	北九州地域	84	26.2%	45.2%	11.9%	32.1%	41.7%	46.4%	19.0%	16.7%	32.1%	47.6%	36.9%	26.2%	29.8%	25.0%	15.5%	10.7%	3.6%	1.2%		
	福岡地域	202	18.8%	32.7%	20.3%	35.6%	53.0%	56.4%	20.8%	14.9%	24.3%	37.6%	29.7%	12.9%	19.8%	21.8%	13.9%	8.9%	5.0%	2.0%		
	筑後地域	56	25.0%	32.1%	32.1%	46.4%	55.4%	35.7%	21.4%	19.6%	26.8%	39.3%	19.6%	28.6%	23.2%	19.6%	23.2%	14.3%	7.1%	0.0%		
	筑豊地域	37	24.3%	56.8%	18.9%	18.9%	35.1%	32.4%	10.8%	10.8%	18.9%	27.0%	27.0%	5.4%	2.7%	13.5%	10.8%	2.7%	5.4%	2.7%		

身の回りの環境で、現在、満足していることについて、性別にみると、男性は「ごみが正しく管理・処理されていること」（53.0%）、女性は「身近な自然（海、山、雑木林、川、野鳥など）と触れ合えること」（48.8%）が、それぞれ割合が最も高くなっています。

年代別にみると、20代以下、40代、60代、70代以上は、「ごみが正しく管理・処理されていること」の割合が最も高かったのに対し、30代及び50代は「身近な自然（海、山、雑木林、川、野鳥など）と触れ合えること」が最も高くなっていました。

地域別にみると、4地域で傾向が異なっており、北九州地域では「水が汚染されていないこと」、福岡地域は、「身近な自然（海、山、雑木林、川、野鳥など）と触れ合えること」、筑後地域では「ごみが正しく管理・処理されていること」、筑豊地域では「太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること」が最も高くなっています。

(3) 身の回りの環境について良くなったと感じること

<問3> あなたが普段生活している身の回りの環境について、この10年間で良くなったと感じるのはどのようなところですか。

(n=379 複数回答可 回答件数=1,624)

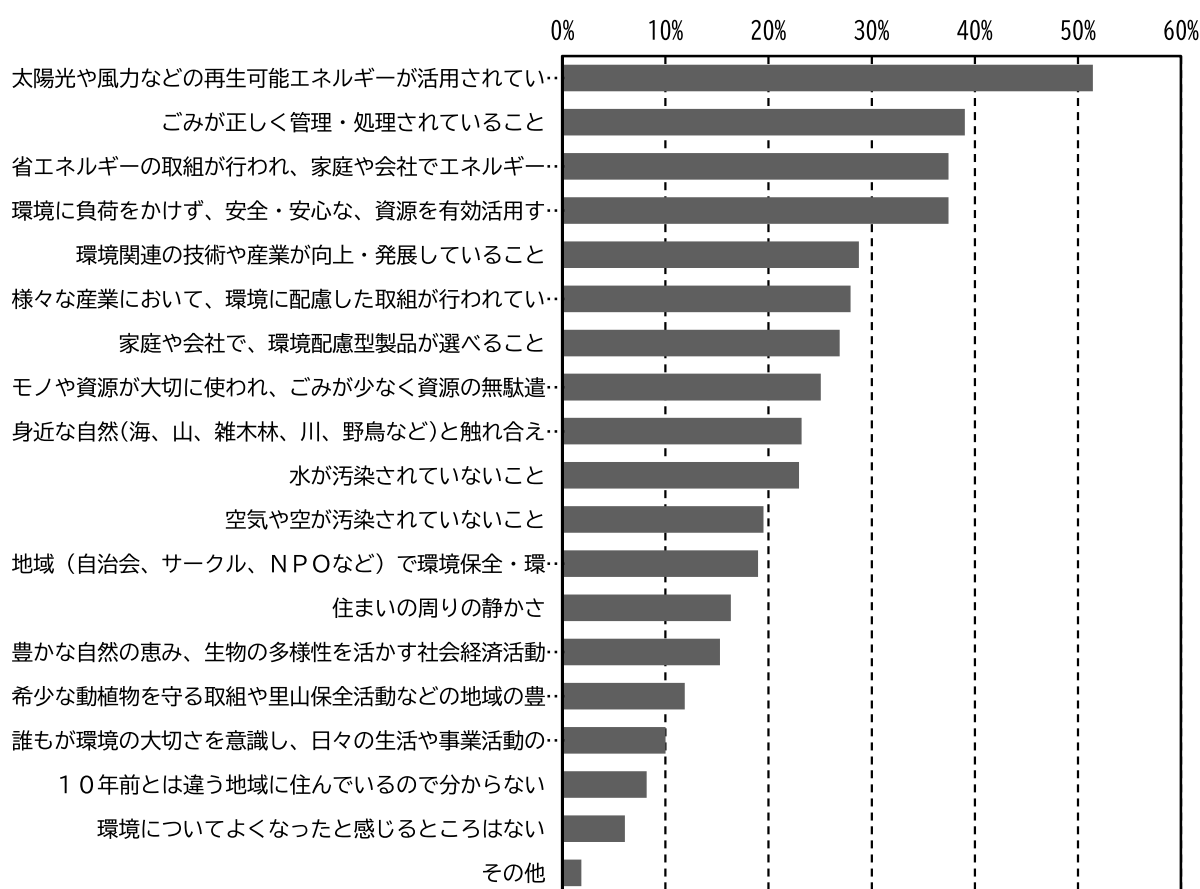
太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること	51.5%	195名
ごみが正しく管理・処理されていること	39.1%	148名
省エネルギーの取組が行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること	37.5%	142名
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること	37.5%	142名
環境関連の技術や産業が向上・発展していること	28.8%	109名
様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていること	28.0%	106名
家庭や会社で、環境配慮型製品が選べること	26.9%	102名
モノや資源が大切に使われ、ごみが少なく資源の無駄遣いがないこと	25.1%	95名
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えること	23.2%	88名
水が汚染されていないこと	23.0%	87名
空気や空が汚染されていないこと	19.5%	74名
地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていること	19.0%	72名
住まいの周りの静かさ	16.4%	62名
豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること	15.3%	58名
希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること	11.9%	45名
誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること	10.0%	38名
10年前とは違う地域に住んでいるので分からない	8.2%	31名
環境についてよくなったと感じるところはない	6.1%	23名
その他	1.8%	7名

無回答 0.0% (0名)

[その他(抜粋)]

- ・ 食品ロスに目を向けた取り組みが活発になったこと。フードバンクが機能し、子ども食堂や必要とする団体などにいきわたるようになってきました。ひとり親家庭にお寺のお供え物が届けられたりしているそうで食品ロスの考えからだと思います。消費期限、賞味期限の違いを理解することを広めることも大事とではないでしょうか。
- ・ リサイクルショップが増えて不要なものをゴミとして捨てるのではなく必要な人に活用してもらえる機会が増えた。
- ・ 皮肉なことですがコロナ禍による経済活動停止により空気汚染が少なく今年はPM2.5値が低かった。
- ・ 10年前に比べ環境は徐々に悪化しているが、40年前に比べれば格段に良い。

身の回りの環境についてよくなったと感じること



普段生活している身の回りの環境について、この10年間でよくなったと感じることを尋ねたところ、全体では、「太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること」(51.5%)の割合が最も高く、次いで、「ごみが正しく管理・処理されていること」(39.1%)、「省エネルギーの取組が行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること」及び「環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること」(いずれも37.5%)となっています。

表 身の回りの環境について良くなったと感じること（全体、性別、年代別、地域別）

	回答人数合計（名）	いること	省エネルギーの取組が行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること	太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること	モノや資源の無駄遣いが少ないこと、ごみが少なく資源の無駄遣いが少ないこと	環境に負荷をかけず、安全・安心な資源を有効活用するリサイクルが行われていること	ごみが正しく管理・処理されていること	身近な自然（海、山、雑木林、川、野鳥など）と触れ合えること	豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること	豊かな動植物を守る取組や里山保全活動などの地域での豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること	希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域での豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること	空気や空気が汚染されていないこと	水が汚染されていないこと	住まいの周りの静かさ	様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていること	環境関連の技術や産業が向上・発展していること	家庭や会社で、環境配慮型製品が選ばれること	地域（自治会、サークル、NPOなど）で環境保全・環境教育を通じてきた地域づくりが行われていること	誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や実践活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること	10年前とは違う地域に住んでいるの	環境についてよくなったと感じるところはない	その他
全体	379	37.5%	51.5%	25.1%	37.5%	39.1%	23.2%	15.3%	11.9%	19.5%	23.0%	16.4%	28.0%	28.8%	26.9%	19.0%	10.0%	8.2%	6.1%	1.8%		
性別	男性	168	43.5%	58.3%	28.0%	35.1%	39.9%	28.0%	16.7%	13.1%	32.1%	32.7%	20.2%	31.5%	32.7%	25.0%	19.0%	10.7%	6.0%	6.5%	2.4%	
	女性	211	32.7%	46.0%	22.7%	39.3%	38.4%	19.4%	14.2%	10.9%	9.5%	15.2%	13.3%	25.1%	25.6%	28.4%	19.0%	9.5%	10.0%	5.7%	1.4%	
年代別	20代以下	48	35.4%	35.4%	33.3%	33.3%	27.1%	12.5%	8.3%	4.2%	10.4%	12.5%	8.3%	18.8%	29.2%	27.1%	16.7%	10.4%	8.3%	8.3%	0.0%	
	30代	82	35.4%	51.2%	22.0%	35.4%	35.4%	25.6%	18.3%	9.8%	14.6%	15.9%	12.2%	32.9%	26.8%	22.0%	12.2%	9.8%	9.8%	6.1%	2.4%	
	40代	88	30.7%	47.7%	22.7%	36.4%	35.2%	20.5%	12.5%	9.1%	9.1%	19.3%	19.3%	26.1%	23.9%	20.5%	13.6%	6.8%	12.5%	5.7%	0.0%	
	50代	73	41.1%	52.1%	20.5%	37.0%	35.6%	26.0%	16.4%	16.4%	24.7%	30.1%	19.2%	30.1%	31.5%	37.0%	23.3%	5.5%	5.5%	8.2%	4.1%	
	60代	52	46.2%	57.7%	26.9%	44.2%	53.8%	21.2%	17.3%	11.5%	28.8%	28.8%	21.2%	26.9%	32.7%	28.8%	21.2%	13.5%	5.8%	3.8%	1.9%	
	70代以上	36	41.7%	72.2%	33.3%	41.7%	58.3%	36.1%	19.4%	25.0%	44.4%	38.9%	16.7%	30.6%	33.3%	30.6%	38.9%	22.2%	2.8%	2.8%	2.8%	
地域別	北九州地域	84	41.7%	59.5%	26.2%	39.3%	33.3%	23.8%	16.7%	11.9%	29.8%	33.3%	17.9%	34.5%	31.0%	25.0%	21.4%	9.5%	3.6%	4.8%	1.2%	
	福岡地域	202	32.7%	47.5%	22.3%	37.6%	40.6%	25.2%	15.3%	11.4%	15.3%	19.3%	16.3%	28.2%	31.2%	29.2%	17.3%	9.9%	10.4%	6.4%	2.5%	
	筑後地域	56	42.9%	48.2%	35.7%	41.1%	48.2%	14.3%	14.3%	17.9%	21.4%	23.2%	12.5%	28.6%	26.8%	33.9%	21.4%	14.3%	7.1%	7.1%	1.8%	
	筑豊地域	37	45.9%	59.5%	21.6%	27.0%	29.7%	24.3%	13.5%	5.4%	16.2%	18.9%	18.9%	10.8%	13.5%	8.1%	18.9%	5.4%	8.1%	5.4%	0.0%	

身の回りの環境で、この10年間で良くなったと感じることについて、性別にみると、男性・女性ともに「太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること」の割合が最も高く、男性は58.3%、女性は46.0%となっており、特に男性では6割近くを占めています。

年代別にみても、すべての年代で「太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること」の割合が最も高く、特に70代以上では7割以上を占めています。

地域別でも、すべての地域で「太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること」の割合が最も高くなっています。なお、筑後地域では、「太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること」と並び、「ごみが正しく管理・処理されていること」の割合も高く、いずれも48.2%となっています。

(4) 身の回りの環境について、不安や不満足と感ずること

<問4> あなたが普段生活している身の回りの環境について、不安や不満足と感ずるのはどのようなところですか。

(n=379 選択は4つまで 回答件数=1,035)

モノや資源が大切に使われず、ごみが多いことや資源が無駄遣いされていること	40.1%	152名
空気や空が汚染されていること	34.6%	131名
ごみが正しく管理・処理されていないこと	24.5%	93名
住まいの周りの静かさが保たれていないこと	20.1%	76名
水が汚染されていること	19.8%	75名
省エネルギーの取組が行われず、家庭や会社でエネルギーが無駄遣いされていること	15.3%	58名
太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていないこと	13.5%	51名
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていないこと	13.5%	51名
豊かな自然の恵み、生物の多様性を損なう社会経済活動が行われていること	12.4%	47名
日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていないこと	11.9%	45名
希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていないこと	11.6%	44名
環境関連の技術や産業が向上・発展していないこと	9.5%	36名
環境について、不安や不満足と感ずるところはない	9.5%	36名
地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていないこと	9.2%	35名
様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていないこと	8.4%	32名
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えないこと	7.9%	30名
その他	7.7%	29名
家庭や会社で、環境配慮型製品を選べないこと	3.7%	14名

無回答 0.0% (0名)

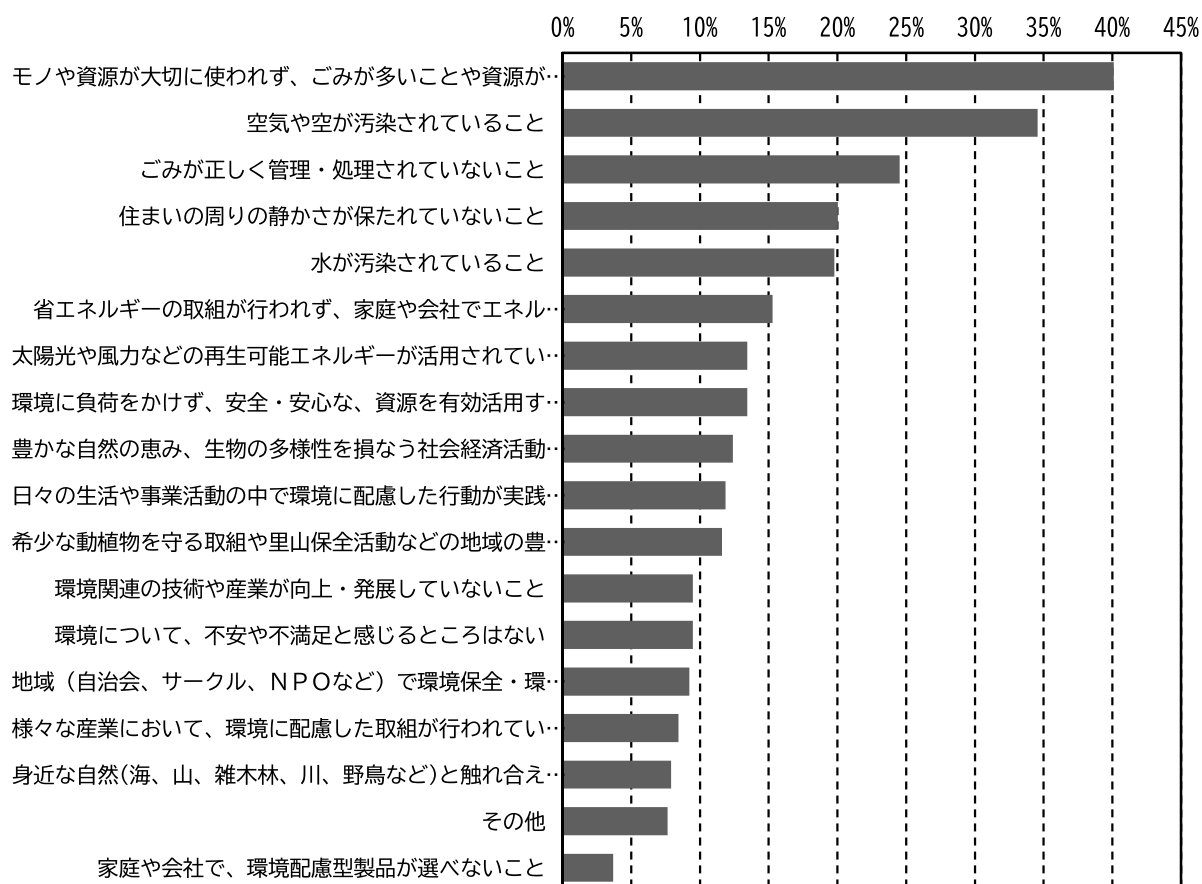
[その他(抜粋)]

- ・ 天候の不順、豪雨災害は自然環境の悪化からなのかわからないが、頻繁に繰り返されることに不安を感ずる。
- ・ 地球温暖化によって水害被害が相次いで起こっています。今後も続くであろう被害を最小限に食い止めるための情報を環境目線からもっと発信してほしい。
- ・ エネルギー関係は、再生エネルギー(特に太陽光)の一点主張で、コストは個人に負担させるということには賛同できない。
- ・ 本来やるべき省エネルギー技術・省エネルギー生活といった本質的取り組みがなおざりになっている
- ・ 環境を守るため、プラスチックごみの削減のため袋の有料化が始まったがコロナの感染リスクや袋以外のプラスチック(ストロー)などまだまだ使われたるものが多いのに袋だけで環境が変わるとは思えません。
- ・ レジ袋有料化は意味があるのかなと感じています。
- ・ 今問題のマイクロプラスチックについて、レジ袋が注目されていますが、それだけを削減し

たからと言って解決するものではないし、人の生活そのものの見直し、また、正しいごみ処理の仕方の啓発などが必要と思います。

- ・ 資源ごみを集めてくれる所（牛乳パックやペットボトル、キャップなど）が人口に対して少ないと感じる。
- ・ 資源ごみの分別が少ないので本当に再利用されているのか？
- ・ 飲料の入っていた缶、弁当のポリ容器などが、放置されていることをよく見ます。たばこの吸い殻のポイ捨ては、福岡ではあまり見ませんが、このような放置は若年層や外国からの観光客が多いような印象です。学校教育や啓蒙が必要です。
- ・ ポイ捨てするモラルの低い人が一定数いること。
- ・ 公園や道路に平気でごみを捨てる人がいる。タバコのポイ捨てが多い。
- ・ 周知かもしれないが、マナーの欠如であり、大型ショッピングセンター、コンビニなどの駐車場に放置ごみ（買い物用ビニール、空き缶等）が目立つ。
- ・ 日本では食料が一年に 650 万トンも廃棄されている。コンビニやスーパー飲食店などや、家庭からもである。貧しく飢餓に苦しんでいる国がある中で、罰当たり的な状態である。異常に短い賞味期限、消費期限を改定しないと、今後食糧危機の時代になれば日本人は生き残れなくなる。
- ・ ごみ袋代が高い。
- ・ 山や空き地に大規模な太陽光パネルを設置して、森林伐採していること、景観が悪くなっていることが不満です。
- ・ 飼い犬の糞を取らずに放置しているのをよく見る。
- ・ 近所に大規模養豚場があるが、悪臭が発生し、排水も汚い水を排出している。
- ・ 近隣に消防署や救急病院があるため、昼夜を問わず緊急車両のサイレンが鳴り響いている。また、都市高速道路の遮音壁の設置がなされていないため騒音が気になる。
- ・ 東日本大震災後の福島原発の後、放射能汚染はまだ残っています。
- ・ 田畑や個人の敷地内で、野焼きや草木を焼く人が多いこと。

身の回りの環境について不安や不満足と感ずること



普段生活している身の回りの環境について、不安や不満足と感ずることについて尋ねたところ、全体では、「モノや資源が大切に使われず、ごみが多いことや資源が無駄遣いされていること」(40.1%)の割合が最も高く、次いで、「空気や空が汚染されていること」(34.6%)、「ごみが正しく管理・処理されていないこと」(24.5%)の順となっています。

表 身の回りの環境について不安や不満足と感ずること（全体、性別、年代別、地域別）

	回答人数合計（名）	省エネルギーの取組が行われず、家庭や会社でエネルギーが無駄遣いされていること	太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていないこと	モノや資源が大切に使用されず、ごみが多いことや資源が無駄遣いされていること	環境に負荷をかけず、安全・安心な資源を有効活用するリサイクルが行われていること	ごみが正しく管理・処理されていないこと	身近な自然（海、山、雑木林、川、野鳥など）と触れ合えないこと	豊かな自然の恵み、生物の多様性を損なう社会経済活動が行われていること	希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域で豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること	空気や空気が汚染されていること	水が汚染されていること	住まいの周りの静かさが保たれていないこと	様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていないこと	環境関連の技術や産業が向上・発展していないこと	家庭や会社で、環境配慮型製品が選べないこと	地域（自治会、サークル、NPOなど）で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていないこと	日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていないこと	環境について、不安や不満足と感ずるところはない	その他	
全体	379	15.3%	13.5%	40.1%	13.5%	24.5%	7.9%	12.4%	11.6%	34.6%	19.8%	20.1%	8.4%	9.5%	3.7%	9.2%	11.9%	9.5%	7.7%	
性別	男性	168	15.5%	15.5%	45.2%	14.3%	28.6%	8.3%	12.5%	27.4%	19.6%	21.4%	7.1%	10.1%	2.4%	10.7%	11.9%	10.1%	7.7%	
	女性	211	15.2%	11.8%	36.0%	12.8%	21.3%	7.6%	12.3%	40.3%	19.9%	19.0%	9.5%	9.0%	4.7%	8.1%	11.8%	9.0%	7.6%	
年代別	20代以下	48	12.5%	12.5%	37.5%	12.5%	25.0%	8.3%	10.4%	37.5%	14.6%	25.0%	10.4%	8.3%	2.1%	18.8%	12.5%	12.5%	0.0%	
	30代	82	11.0%	11.0%	31.7%	7.3%	22.0%	6.1%	12.2%	40.2%	26.8%	22.0%	6.1%	8.5%	3.7%	3.7%	4.9%	9.8%	9.8%	
	40代	88	13.6%	11.4%	34.1%	14.8%	23.9%	8.0%	11.4%	13.6%	38.6%	22.7%	19.3%	6.8%	10.2%	3.4%	5.7%	12.5%	10.2%	6.8%
	50代	73	15.1%	15.1%	47.9%	20.5%	32.9%	5.5%	9.6%	17.8%	28.8%	15.1%	23.3%	11.0%	15.1%	4.1%	6.8%	13.7%	6.8%	6.8%
	60代	52	19.2%	15.4%	46.2%	9.6%	19.2%	11.5%	11.5%	11.5%	28.8%	21.2%	15.4%	5.8%	7.7%	3.8%	15.4%	15.4%	3.8%	9.6%
70代以上	36	27.8%	19.4%	52.8%	16.7%	22.2%	11.1%	25.0%	13.9%	27.8%	11.1%	11.1%	13.9%	2.8%	5.6%	13.9%	16.7%	16.7%	13.9%	
地域別	北九州地域	84	16.7%	7.1%	39.3%	9.5%	34.5%	6.0%	11.9%	20.2%	9.5%	15.5%	8.3%	3.6%	2.4%	13.1%	8.3%	14.3%	13.1%	
	福岡地域	202	16.8%	18.3%	39.1%	13.4%	18.3%	7.4%	13.9%	40.1%	17.8%	21.8%	7.9%	9.9%	3.0%	6.9%	10.9%	8.9%	6.9%	
	筑後地域	56	10.7%	8.9%	44.6%	17.9%	28.6%	12.5%	10.7%	8.9%	33.9%	30.4%	25.0%	8.9%	14.3%	7.1%	12.5%	17.9%	7.1%	1.8%
	筑豊地域	37	10.8%	8.1%	40.5%	16.2%	29.7%	8.1%	8.1%	8.1%	37.8%	37.8%	13.5%	10.8%	13.5%	5.4%	8.1%	16.2%	5.4%	8.1%

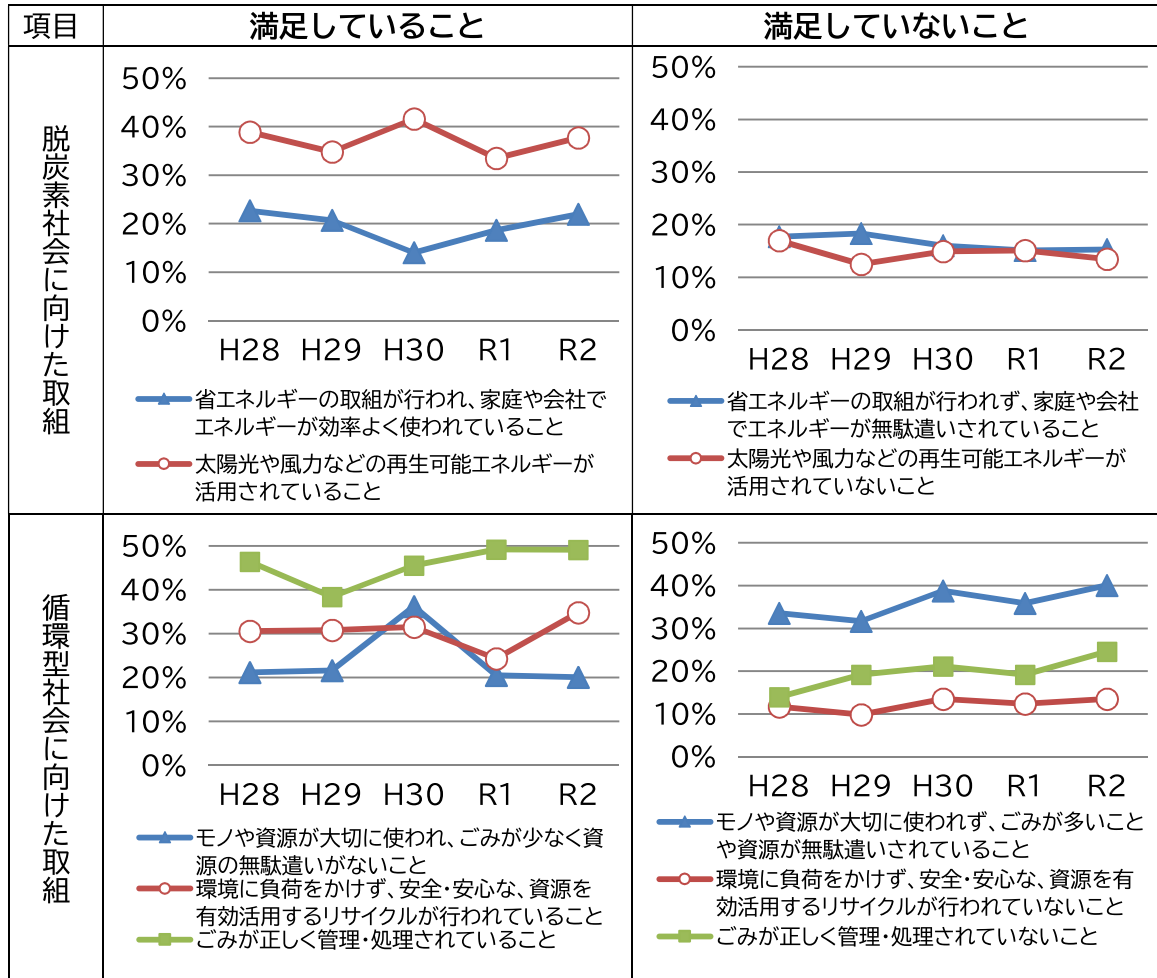
身の回りの環境で、不安や不満足と感ずることについて、性別にみると、男性では「モノや資源が大切に使用されず、ごみが多いことや資源が無駄遣いされていること」（45.2%）、女性では「空気や空気が汚染されていること」（40.3%）の割合が、それぞれ最も高くなっています。

年代別にみると20代以下、30代、40代では、「空気や空気が汚染されていること」の割合が高く約4割を占めたのに対し、50代、60代、70代以上では「モノや資源が大切に使用されず、ごみが多いことや資源が無駄遣いされていること」が最も高く、約5割となっています。

地域別にみると、福岡地域では「空気や空気が汚染されていること」（40.1%）の割合が最も高かったのに対し、それ以外の地域では「モノや資源が大切に使用されず、ごみが多いことや資源が無駄遣いされていること」の割合が最も高くなっています。

(5) 環境への満足度・不満足度についての経年変化

毎年度行っている「環境に関する福岡県民意識調査」の結果※を基に、過去5年間の経年変化を確認します。(※調査対象者は毎年度変わっています。)

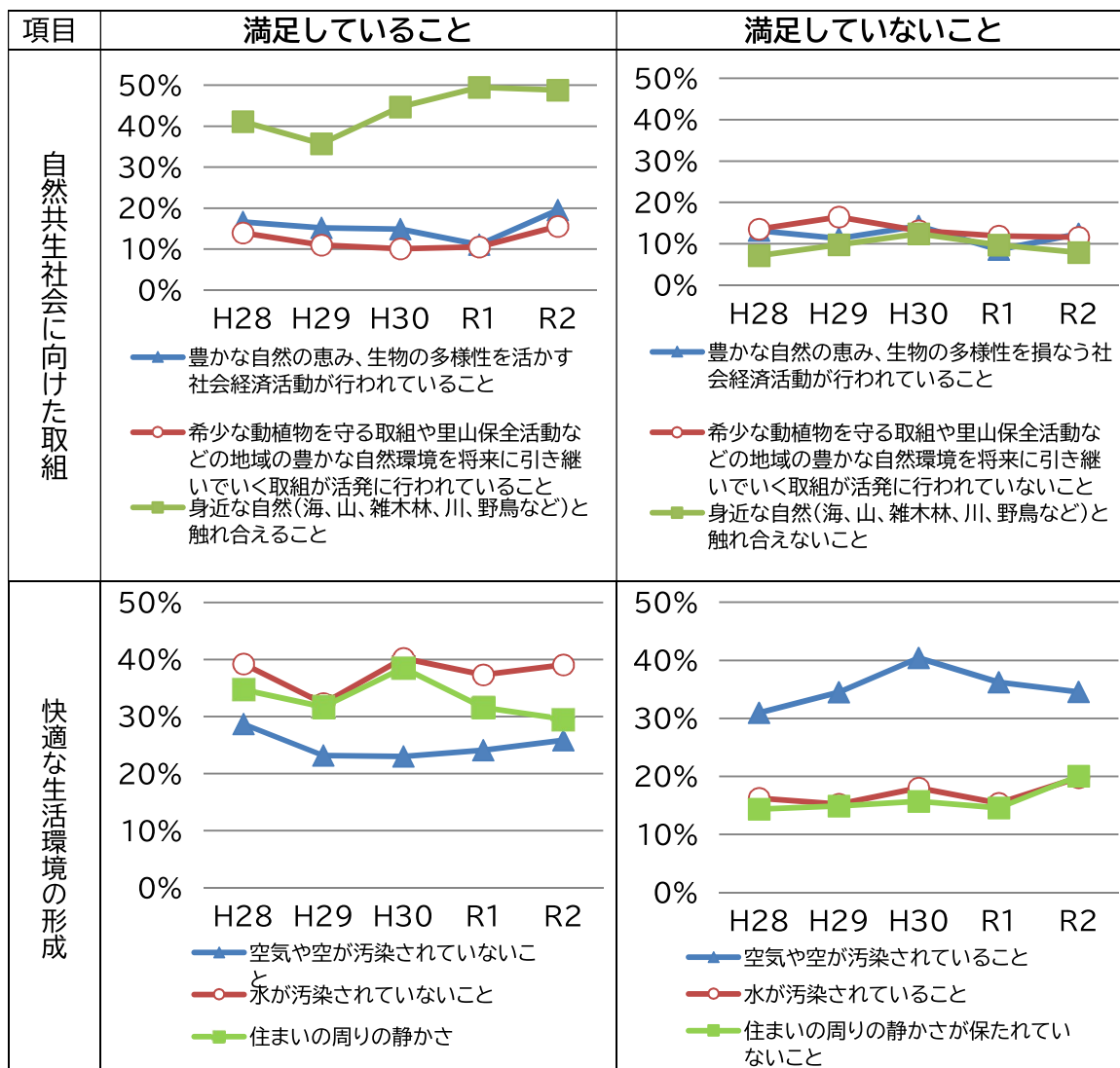


<脱炭素社会に向けた取組>

- ・ 「太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること」に対する満足度は、過去5年間を通して、比較的高く推移しています。
- ・ 「省エネルギーの取組が行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること」に対する満足度は、平成30年度以降、上昇傾向にあります。

<循環型社会に向けた取組>

- ・ 「ごみが正しく管理・処理されていること」に対する満足度は、比較的高く推移しており、特に平成29年度以降は上昇しています。
- ・ 「環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること」に対する満足度は、令和2年度は大きく上昇しています。
- ・ 一方、不安や不満足と感じる割合については、「モノや資源が大切に使われず、ごみが多いことや資源が無駄遣いされていること」は、過去5年間を通じて3~4割程度が選択しており、比較的高く推移しています。

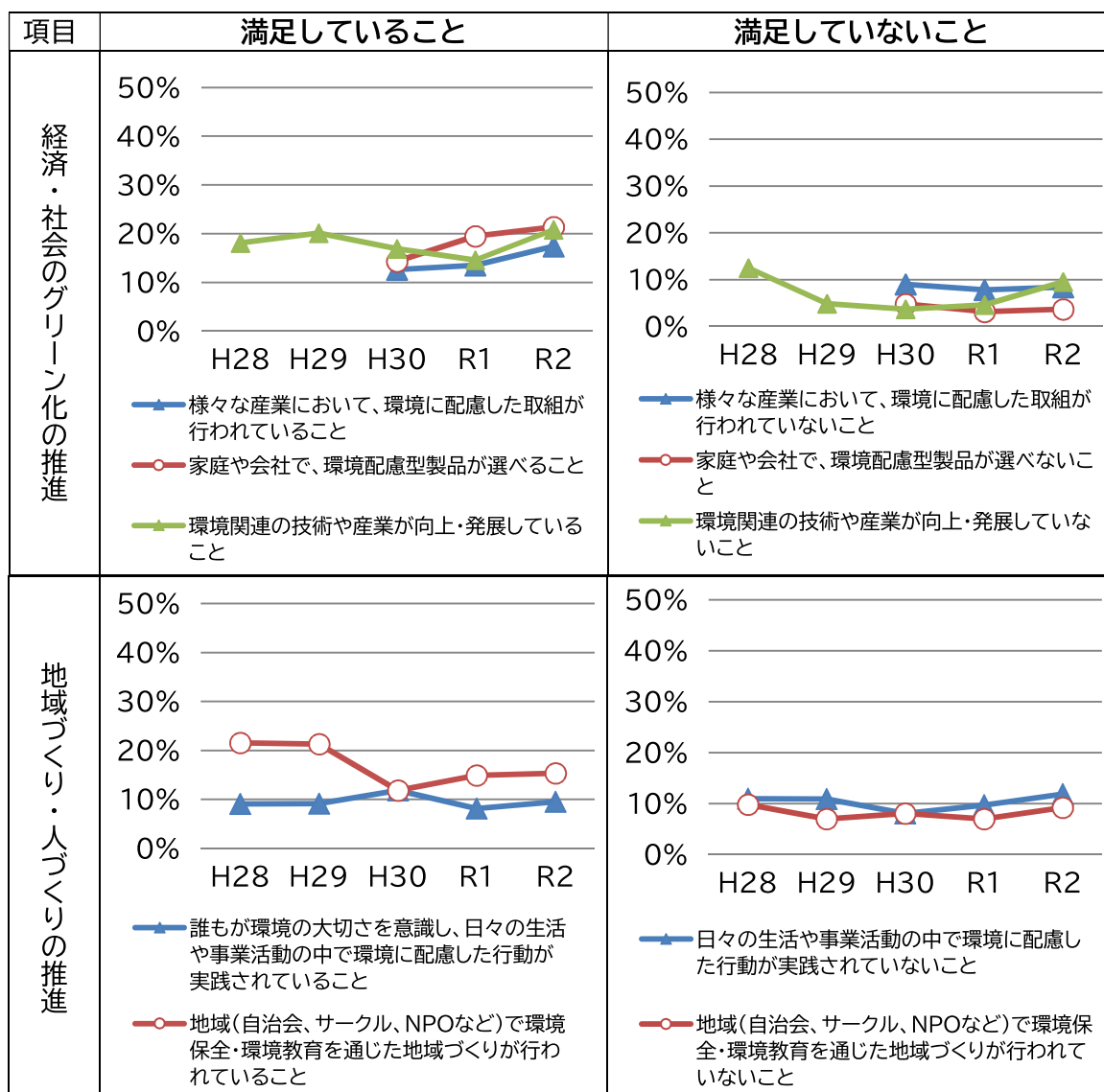


<自然共生社会に向けた取組>

- ・ 「身近な自然（海、山、雑木林、川、野鳥など）と触れ合えること」に対する満足度は、比較的高く推移しています。
- ・ 「豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること」及び「希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること」に対する満足度は、令和2年度は上昇しています。

<快適な生活環境の形成>

- ・ 「水が汚染されていないこと」に対する満足度は、比較的高く推移しています。
- ・ 「住まいの周りの静かさ」に対する満足度は、平成30年度以降は減少、「空気や空が汚染されていないこと」に対する満足度は、平成30年度以降は上昇しています。
- ・ 一方、不安や不満足と感じる割合については、「空気や空が汚染されていること」では、過去5年間を通じて3~4割程度が選択しており、比較的高く推移しています。



<経済・社会のグリーン化の推進>

- ・ 「環境関連の技術や産業が向上・発展していること」に対する満足度は、令和2年度は上昇しています。
- ・ 平成30年度から選択肢として設定した「様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていること」や「家庭や会社で、環境配慮型製品が選べること」については、上昇傾向がみられます。

<地域づくり・人づくりの推進>

- ・ 「地域（自治会、サークル、NPO など）で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていること」に対する満足度は、平成30年度以降は上昇しています。
- ・ 「誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が自薦されていること」は、過去5年間を通じて横ばいで推移しています。